

浜尾遊水地の維持管理・利活用方針の見直しに係る検討

Considerations Relating to Reviewing Maintenance and Management Plans and Utilization Plan of Hamao Reservoir

自然環境グループ 研究員 川上 北斗
 自然環境グループ グループ長 都築 隆禎
 自然環境グループ 研究員 鈴木 敏弘

1. はじめに

浜尾遊水地は、阿武隈川 98.6k~100.8k 左岸（福島県須賀川市）に位置し、湛水面積約 62ha（遊水地容量約 230 万 m³）という広大な遊水地面積を有している。

平成 10 年 8 月洪水による阿武隈川上流域での洪水被害を受け、被害の減少を目的とした「平成の大改修」により平成 16 年に概成した後、平成 23 年 9 月洪水による下流地域の浸水被害を受け、治水容量増加のための二次掘削が平成 25 年から実施され、平成 30 年に完了している。

また、浜尾遊水地では治水目的のみならず、平常時の利活用を目的とした「浜尾遊水地利用計画 WG（平成 13 年）」等が開催された結果、遊水地内において利用目的に応じた複数のゾーン区分を実施している。

一方、概成から約 20 年（二次掘削完了から約 6 年）が経過した遊水地内の環境については、植生等の環境や利活用状況等が、上記ゾーン区分で意図されたものになっていない箇所も散見される等、遊水地の管理に関する課題が見られている。

本稿では、浜尾遊水地の環境及び利活用の現状を評価したうえで、今後の浜尾遊水地の維持管理・利活用方針を検討した事例を示す。

2. 現況の評価

既往資料の確認と現地調査、地元自治体（須賀川市）へのヒアリング等に基づき、治水・環境・利活用面から遊水地の現況を評価した。

2-1 治水・環境面の評価

遊水地内は、河川水辺の国勢調査等により多様な生物が継続して確認されており、二次掘削の範囲や保全ゾーン周辺の広範囲に渡る湿生植物（ヨシ・オギ類）の分布等、比較的良好な環境が広がっている。しかし、高比高箇所のハリエンジュ等の外来樹木侵入により粗野な環境となっているほか、二次掘削の範囲の端部には湛水時の影響とみられる堆積が確認される等、将来の治水容量低下や樹木繁茂といった懸念がある。

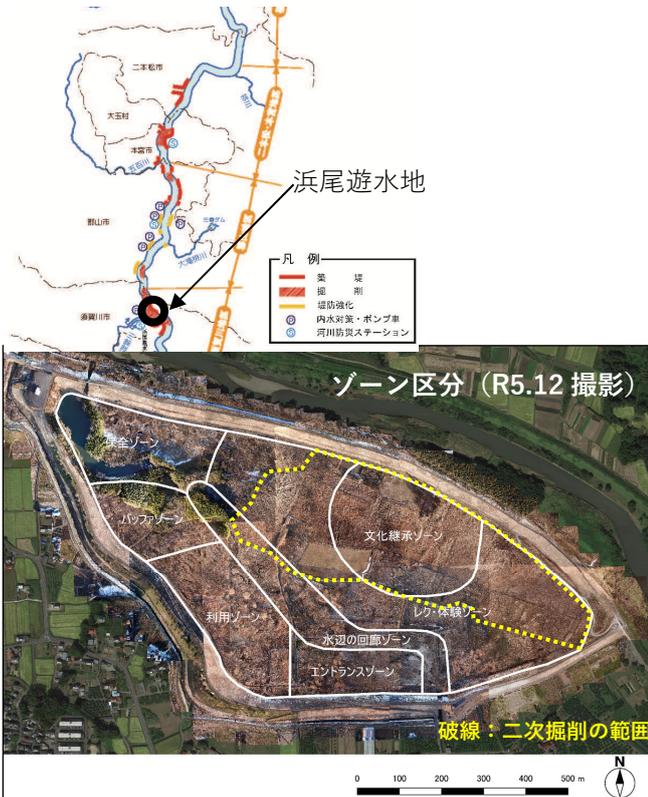


図-1 浜尾遊水地位置およびゾーン区分

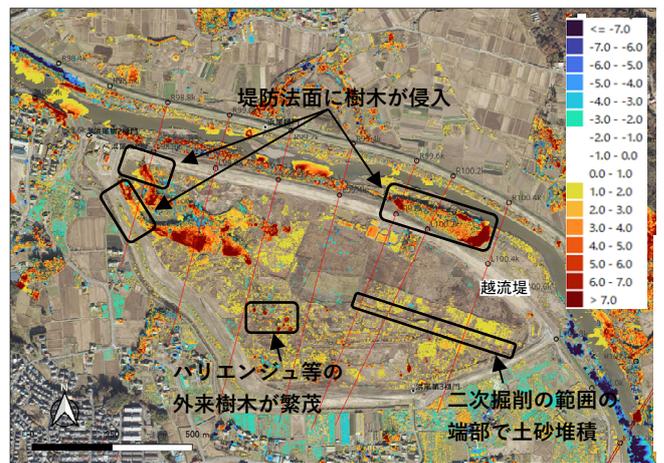


図-2 表層標高データの差分と環境変遷 (H23→R3)

2-2 利活用面等の評価

遊水地中央部にはラジコン飛行場が唯一の占用利用として位置しており、堤防上のウォーキングや遊水地内の水域における外来生物（魚類）駆除を目的としたバス釣り等の短期イベントの開催、平常時の散歩等といった利用が見られるものの、遊水地内の継続的な利活用は限られており、水質浄化施設として整備された水域が陸地化している等、河川管理者のみでの維持管理が難しい現状にある。



図-3 遊水地内の維持管理及び利活用状況

3. 課題と解決策

評価の結果、①環境遷移を考慮した効率的な維持管理②遊水地内の持続的な利活用が課題と考えられた。

3-1 課題①の解決策

課題①の解決策として、既往の環境遷移を踏まえた目標環境を設定した。具体的には、遊水地内の標高の違いを踏まえた植生分布を整理し、植生の変遷に基づく許容可能な植生割合を設定することにより、将来の維持管理のタイミングを明確にした。そのうえで、保全ゾーン周辺に形成されていた湿地環境の拡大や水質浄化施設のメリット等について整理し、遊水地内のハビタット機能確保に寄与する維持管理計画（案）を作成した。

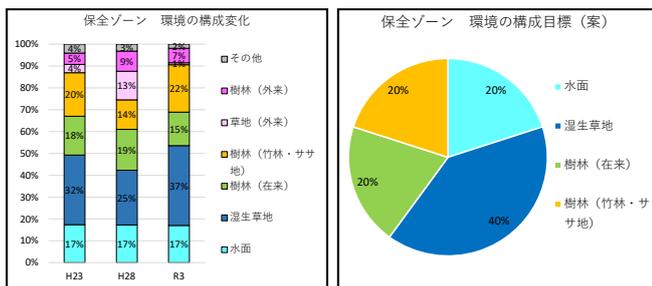


図-4 既往の環境遷移を踏まえた目標環境（植生割合）設定の例（保全ゾーン）

3-2 課題②の解決策

課題②の解決策として、浜尾遊水地の利活用ニーズと既存環境を踏まえたゾーニングの見直し（現状で利活用に乏しい文化継承ゾーン・レク体験ゾーンの一部（二次掘削の範囲のうち掘削深が深い範囲）を創出ゾーンに設定）を行い、前述の維持管理と合わせて象徴

種（ハクチョウ類）等の多様な自然環境のポテンシャルを生かした利活用方法（環境学習・野鳥観察等）を整理した。また、遊水地内の散策路や標識、トイレや倉庫等の利便施設の整備と合わせた、遊水地内外の資源（かやの松明利用・ハチ巣箱設置による周辺果樹園との連携等）を活用した利活用計画（案）を作成した。

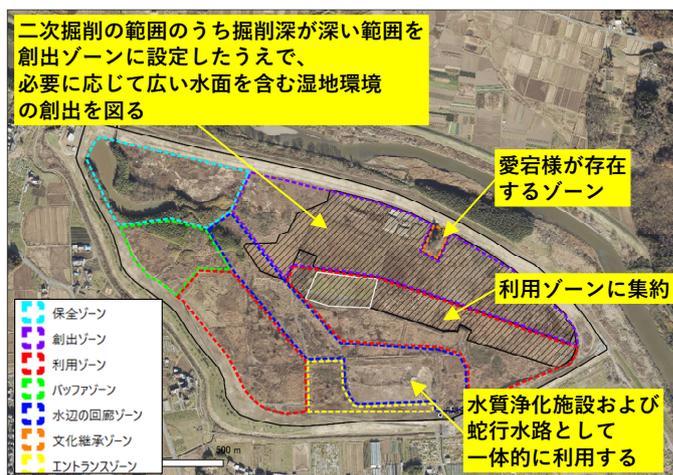


図-5 ゾーニング見直し案

4. おわりに

本検討では、概成後に遷移した自然環境等を生かした遊水地の維持管理・利活用方針について検討を行った。今後は、四季を通じた自然環境の把握をもとに詳細な維持管理方法を検討していくことが課題である。

最後に、本稿の作成にあたり、ご指導頂いた国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所に、厚く御礼申し上げます。

<参考文献>

- 1) 東北地方整備局：阿武隈川水系河川整備計画，2012
- 2) リバーフロント研究所：住民参加による浜尾遊水地整備計画策定，リバーフロント研究所報告第15号，2004